

1. 今回の研修における目的やねらい

◆自らタンザニアを知り、様々なことを体験していく中で、日本との違い、共通性を知ること、それら素材を授業に生かし、生徒たちの興味関心を広げ、積極的に行動できる態度を育てる一助を担えるようにする。

◆教員として、新しい授業づくりへのアイデア、手法を考えたり、他者の授業づくりなどを参考にさせていただきながらより生徒たちに還元できるような授業づくりの実践を行えるようにする。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

自分の想像をはるかに超えた経験をすることができ、目的やねらいは8割以上達成できたと思っています。100%ではない理由は、「より上をめざすのであれば」ということです。事前準備をさらに充実させることもできたかなと思っています。私よりもずっとタンザニアについて勉強をしている先生方を見、最後に岡田大使のお話を伺っていて、もう少し知る努力をしてからタンザニアに行けばまたさらに踏み込んだ質問や課題感を持てたかもしれないなと思いました。

3. タンザニアから学んだこと

イギリスから独立し、ニエレレ時代もすぎ、新しい国づくりに向けてまだまだこれからの国だとは思ふものの、タンザニア人が穏やかに暮らすその姿を見、心根が豊かで、今の現状にそれなりに満足し、穏やかに暮らしている人々の集う国なのだなということがよくわかりました。「豊かさとは何か」といった質問は愚問だと思いますが、戦争や紛争から復興を遂げようと、がんばって成長してきた東南アジアの国々とはまた異なる成長をしようとする国の姿を見たように思います。日々自給自足で農作業をしている中で生まれた食文化や、色彩豊かな絵（ティンガティンガ）の文化などは興味深かったです。教育の観点でいくと、まだまだ課題は残るのかなと思いました。訪れたいくつかの学校では、処罰として体罰が残っていたり、生徒たちへの理解のさせ方、指導方法などへの課題、先生たちの勤務形態やモチベーションなど、日本との教育の仕方の違いをたくさん知ることができました。もしかしたら明治時代ごろの日本などと似ている部分もあるのかもしれないなと思って見ていました。現代の日本とはまるで違うその姿を見ることで、自分の教育観や指導観にも新たに刺激をもらったように思います。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

◆家庭科教育として：授業実践は多方面で考えて行こうと思っています。日本からの準備では、食を中心に展開することを考えていましたが、それだけでなく、他にもできそうです。生徒たちは私のことを「アフリカを見てきた先生」という視点で見るとと思いますので、見てきたことでわかってきた気づきなどをちりばめた授業づくりをすることで生徒たちの多様性を認める、受け止める力の一助になればと思います。

◆キャリア教育として：JICA で働く人々の生き様は、これからの高校生にとって世界を相手に仕事

をしている人を見るよいお手本です。そういった働き方の可能性もあるということを伝えていければと考えています。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修は素晴らしい人々に巡り合え、経験したことのない国に参加できた本当に貴重な体験でした。自分自身の価値観にも幅ができましたし、アフリカ人に対しても親近感を覚えるようになりました。また、一緒に参加した先生との協力体制もすばらしかったと思います。今回のプログラムは決して一人ではできない充実したものでした。これは、皆で係分担をしていった協力・共同作業の成果だと思っています。先生たち一人一人の力の素晴らしさを本当に感じました。

来年に向けてひとつだけ提案させていただくとするならば、毎晩の振り返り会はまだもっと活発に個々が自分のテーマに関して意見交換できたらと思いました。特にアイデア出しなどのときは、思いついたことを何個も出すことが大切なのに、意見を言う人に偏りがあつたような気がしてなりません。会議は参加しなければ意味がないと思っているので、積極的にかかわる気持ちと参加の気持ちはもっと持ってもいいのかなと思います。意思があれば何かしら意見は言えると思うし、話していくことで膨らんでいくアイデアもたくさんあつたと思います。グループの人数が少なくなればいいのか、分野・校種が一緒であれば出しやすいのか、最初にペアワーク吸えばいいのか、工夫の仕方はどうすればよかったのかわからないですが、次年度の検討項目に挙げていただければ幸いです。

6. 海外研修での役割（日直や各担当）を振り返っての感想・提案など

◆日々の写真の撮影は十二分に行えた。

映像撮影に関しては神谷さんがいらしゃつたのでお任せして、写真の撮影に専念すればよかったので何機材も持ち歩かないでよかったのが安心でした。しかしながら、3人でのチームワークで何かをしたという感じではなかつたので少し3人の連携をとつてもよかったのかもしれない。何枚も同じような写真を撮影してしまつたりすることがあつたかもしれないなと思いました。ダブリはいいと思うのですが、不足がなかつたかどうか心配です。

◆日直の日誌があつてもよかった

毎日にあつたことを所感含めて日直が1枚記録するようなしかけがあつてもよかったのかもしれないなと思いました。今回はノートを用意せず、毎日の多少の時系列の出来事は担当者（吉田さん）がしてくださっていますが、仰々しくノートを準備し、毎日のことを分担して書くと意識もそろつて気持ちもそろつて良かったのかもしれないと思いました。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

参加決定の通知を受け取つてから実際の海外研修まであつという間でした。本校は2期制で他の学校に比べ夏休みが遅く始まるため、なかなか準備に専念できず大変でした。しかし、実際に行つてみてその時の疲れはすべて吹き飛びました。本当に行けてよかったと思いました。タンザニアの大地に足を踏み入れ、たくさんの JICA の方が働かされている姿を目の前にして、タンザニアそのものへの感動だけでなく、タンザニアで働く日本人心意気の素晴らしさなどにも触れることができ、

すべてが新鮮で、刺激的会日々でした。また一緒に行った仲間の先生たちとの交流も非常に有意義なものでした。日頃なかなか校種の異なる他校の先生と仕事について話すことはないので、素直に楽しかったです。一人欠けても同じ研修はできなかった、協力して作り上げた研修だと思います。選んでいただき本当にありがとうございました。この楽しかった想いを胸に、生徒たちに精一杯還元しようと思います。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

◆研修国のことをよく勉強しておく

研修国をよりよく知る努力をしていくと、事前にたくさんの疑問も湧き、現地でのインタビューなども効率よくできる場合もあるのでできる限りやっておくことをお勧めします。勉強の時もできるだけ自分事として頭に整理できるよう、「日本と比較してどうなのか」という理解のしかたをしておくといいです。歴史的背景、学校の制度や物価（賃金、水やコメなどの食料の値段）の目安、日本と比較して理解しておくことです。町の風景を見ても「あ、これはイギリスの占領下にあったから」なのか、「ドイツの影響を受けて」なのか「宗教的にイスラムが多いので」なのか、知っている知識が多ければなんらかの仮説が立つと思います。メンバーで勉強会などしてみてもいいと思います。学校のメンバー内の共通認識が増えて、会話に深みが増すように思います。資料はたくさんいただいていたのですが、メンバーの中によく勉強している人がいて助かりました。

◆生徒向けアンケートは用意をしておくといい

今回、メンバーで協力し合ってアンケートを共通で作成し、一斉に質問をアンケートでとることができました。50人分の子どものデータなどはなかなか取れるものではないので、用紙を用意しておいたのは大正解でした。昨年の研修のメンバーもされていたそうですが、これは絶対に作っていくことをお勧めします。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月11日(日) -12日(月)	日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着	1名を除き全員時間通りに到着できました。出発が少し早まり、22時半から22時10分になりました。関西空港を経由してドーハへという話が最初あったのですが、実際にはそうではありませんでした。ドーハには早めに着き、再び飛行機に乗り換え、空港に無事に到着しました。コーヒーを買いドーハの物価が非常に高いことを実感しました。
8月12日(月)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	ホテルにチェックインをしてJICA事務所に向かいました。所長のお話のあと、安全管理の話と健康に関するインフォメーションを受けました。特にマラリアに関する諸注意は強く受けました。虫さされ以外準備をしていなかったもので、しっかり

		長そで長ズボンで過ごすことを考えなければなら ないと思うお話でした。
8月12日(月)	本日の振り返り	夕食を JICA 職員の皆さまととり、ふりかえりはあ りませんでした。ホテルに戻るとすぐに就寝しま した。
8月13日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	朝ホテルを出発し JICA 事務所に。 ホテル代金の集金 (515 ドル) ののち、 以下のような分刻みのスケジュールでお話をいた だきました。 9:43-9:57 足立さん 日程の確認 9:58-10:35 岩間次長 タンザニアの概要 10:42-11:02 阿部さん(男性) タンザニアの 教育制度について 11:02-11:15 佐藤さん ボランティア事情につ いて 現地の隊員の紹介 11:15-11:23 質問タイム 11:30-12:26 木全次長、大林さん O&OD プロ ジェクトについて 最も理解が悪かった(自分のせい)は教育制 度でした。たくさんの情報をきちんと理解するの にかなり戸惑いました。でも、これをしっかり理 解しなければならないなと思って必死に伺ってお りました。 質問もまとを得たことはあまりできなかったのが 反省です。
8月13日(火)	モロゴロへ移動	昼食後、はがき、切手などを購入してからバスに 乗り込みました。到着は19時ぐらいでした。 到着後、夕食をとり、ふりかえりの時間を待ちま した。
8月13日(火)	本日の振り返り	本日の気付きを皆でシェアしました。私は O&ODPJ の説明をいただいても、「この PJ の価値」や「優 先順位」のようなことを多く考えていたので、そ れを話していました。後々まで悩んでいたのです が最初は本当にちんぷんかんぷんだったなと思 います。
8月14日(水)	Maseyu 村 Mazizi 地区 Maseyu 村 Mjini 地区 サイト視察	8時50分出発。最初に村の入り口で自己紹介をし た後、数台の車に分かれて Mazizi 地区の小学校に 向かいました。小学校併設の幼稚園、診療所(共

		<p>にO&OD PJの活動で建設した)、レンガ銀行、amaniという女性グループの活動などを見学しました。</p> <p>昼食をいただき、バスで帰宅する途中に、県知事を表敬訪問するという機会に恵まれました。めったにない機会をいただけて光栄です。</p>
8月14日(水)	専門家との懇談会	<p>田中専門家と席が近く、お話をしました。なぜ専門家としてタンザニアにいらしたのか、どんなことを考えながら日々活動しているのかなど、ざっくばらんにお話を伺わせていただきました。</p> <p>日々の活動だけでなく、田中さんはタンザニアでたくさん写真を撮り、その写真を通してタンザニアの状況を伝えることも彼の大きな生きがいです。様々な想いを持つ人々がO&ODPJには参加しているのだなと感じました。</p>
8月14日(水)	本日の振り返り	<p>翌日のヒアリングをどのように進めるのかを話し合いました。見学したものを受けて、どのように班わけし、翌日の動きを決めるのかを話せたのは大変よかったです。ここで通訳の関係上3班に分けて話を伺うことになりました。</p>
8月15日(木)	Maseyu 村 Mjini 地区関係者インタビュー	<p>前日から新たに加わった方の事項紹介の後、女性3名のかたにヒアリングを行いました。教育の内容を中心に最初は話を伺っていましたが、日常生活の話をお伺いしていく中で徐々に結婚観などにまで話が広がる結果となり、多岐にわたる話ができました。日本でもタンザニアでも共感できる話題をきっかけにお互いの距離がぐっと縮まったと思いました。</p>
8月15日(木)	小学校視察、村人との交流	<p>◆小学校の視察と共にO&ODPJで建設中の幼稚園の見学も行いました。幼稚園は部屋がないために、小学校の間借りをしていることや、それでも部屋の不足する子どもたちは青空学級になっていることなどを伺いました。朝は寒く、10時以降になると暑いこと、ノートもなく、書きたいことが書けないなど、学習環境そのものに様々な障害があるために学校に来なくなる子もいるとのことでした。9月には屋根ができ、新しい校舎が建つということも話されていました。</p> <p>◆昼食時には、おにぎり・みそ汁を試食していた</p>

		<p>だき、感想を伺いました。おいしいと言ってくれていたようですが、ややおにぎりの「海苔」には得意不得意がありそうでした。</p> <p>◆村人との交流では、ラジオ体操、ソーラン節、歌の披露（マライカ・ふるさと）、なわとびなどを行いました。村人からも女性陣の踊りなどを披露していただきました。</p>
8月15日(木)	市内視察（モロゴロ）	<p>モロゴロ市内を赤堀隊員に案内いただきました。教科書販売をしている書店や、カンガを売る店、日常の食料品を売るスーパー、そして野菜や肉を売る市場の見学もしました。街は非常に賑わっており、中には物乞いをする人もいたりする場所でした。赤堀隊員が様々な人に声をかけられておりましたが、ご本人いわく「日本人が珍しい」とのことでした。そんな街で頑張っている隊員さんがいるのだと改めて実感しました。</p>
8月15日(木)	隊員との懇談会	<p>赤堀隊員を交えての懇談会でした。赤堀隊員はもともとメールのやり取りを拝見していても大変丁寧なただという印象を持っていたのですが、お目にかかって更にその気持ちが増しました。タンザニアの教育に課題感をもち（特に体罰など、あってはならないことに関してはより強く）</p>
8月15日(木)	本日の振り返り	<p>翌日の交流プログラムの最終確認と気づきにかんする振り返りを行いました。英語班で話を聞いていたので、見解の相違がないかなどを小岩さんの話を聞きながら確認したりもしていました。語学の重要性を改めて感じさせられました。</p>
8月16日(金)	ムグラシ中等学校 赤堀隊員	<p>校長先生に挨拶を行った後に、赤堀隊員の授業見学し、その後、日本側からの交流プログラムを行いました。内容としては、紙芝居、カブト作り、習字、アンケートなどです。本当は折り紙なども行う予定でしたが、思った以上に時間がかかってしまい、このような結果になりました。予測よりも多く時間がかかるといわれていましたが、まさにその通りだと思いました。</p> <p>午後の交流プログラムは、外で遊ぶことがほとんどで、全校生徒の時間のある子たち（約 800 人）が校庭に集まり、縄跳び、バルーン、相撲などを行いました。縄跳びは、日本の縄跳びを教えるつ</p>

		<p>もりが、タンザニア人流の縄跳びで彼らが盛り上がってしまったために、タンザニア人だけで遊ぶ結果となり、あまり有効な交流ではなかったような気がしました。彼らの遊びについて知ることはできたものの交流という形にならなかったのは少し残念です。ソーラン節や歌などは喜んでいただけたかなと思っています。</p>
8月16日(金)	<p>ミクミ国立公園通過 モロゴロへ移動</p>	<p>キリン、シマウマ、象、インパラ、サルなどに会えました。補色になっているのがよくわかる見学で、最初どこにどんな動物がいるのかがよくわからないこともありました。欲を言えばもっと長い時間動物をみていたかったです。</p>
8月16日(金)	<p>本日の振り返り</p>	<p>ふりかえりはありませんでした。</p>
8月17日(土)	<p>バガモヨへ移動</p>	<p>8時20分にバガモヨに向けて出発しました。疲労がたまっていたのか、車の中ではかなり眠ってしまいました。</p>
8月17日(土)	<p>市内視察 (バガモヨ)</p>	<p>昼食は加藤隊員のお薦めのローカルフードのお店に連れて行っていただき、サマキピラウ(ピラフと揚げ魚)をいただきました。魚を丸揚げにする製法は、味を良くするためだけではなく、魚をからりと揚げることで保存性を高める目的もあるのかなと感じました。食後は、市内を歩いてまわり、奴隷博物館の見学、海岸そばの魚のマーケット、民芸品の店などを見ました。最後に休憩で上ったビルの屋上からの海の眺めはとても美しかったです。また最後に音楽(舞踏)団体の披露する音楽パフォーマンスも見学しましたが、とても素敵なダンスだと思いました。</p>
8月17日(土)	<p>本日の振り返り</p>	<p>新しい街に移動したこともありその町での気づきがどう授業に展開できるか。という視点で話をしました。楽しく買い物をしすぎてしまった感のあった私には答えを出すのが少し難しかったです。</p>
8月18日(日)	<p>ダルエスサラームに移動</p>	<p>9時半にホテルを出発し、バスでダルエスサラームに向かいました。途中それほど混雑することもなく、予定通りに車は進んだと思います。</p>
8月18日(日)	<p>教材等購入</p>	<p>11時過ぎにティンガティンガ村に到着し、そこで、ティンガティンガの絵や、ネームプレートなどを</p>

		<p>購入しました。ティンガティンガの現在のリーダーはアマンドさんという人で、現在 59 歳。79 年になくなったティンガティンガさんの直系の弟子だったそうです。現在 120 人でイラストを描いている勘定になるのだとか。1 枚に平均 2 日程度製作にかかる（1 枚を何枚か並行して描き、仕上げまでに 10 日かかる）ということで、1 日あたりのコストはどの程度なのか、その金額を考えたときに購入金額としては幾らが妥当なのかなど、考えさせられる部分が多くありました。しかしそのような考えることだけでなく、大変鮮やかな配色の絵がたくさんあり、アフリカの大地らしい絵だなとも感じました。</p>
8 月 18 日(日)	本日の振り返り	<p>ホテルに戻り、17 時半から 1 時間ほど 1 日の活動のふりかえり（授業に使える素材として見つけたものについて）と、翌日の交流プログラムに関しての最終確認を行いました。</p> <p>また、皆で印象に残った話などをシェアしました。</p> <p>◆木全さんの話：案件はニーズの中から名目的にはタンザニア政府が決めている。お金がおりると日本政府が OK をだし、それをタンザニア政府が県に OK 出すイメージ。JICA の要請がタンザニアに通らないこともある。総額が決まると割り当てが決まる。決まるプロセスは、パイロット PJ があり、それを実践後に本番の PJ になる。（パイロット PJ は正式なものとして外務省に委託する）</p> <p>商社などが関わって調査をするのはその調査結果を受けてのこと。</p> <p>◆魚市場：釣った魚をすぐに油で揚げるのは、ウジがわからないようにするため。</p> <p>◆ダウン症の子を見た：障害者を目にするのは珍しいことなのではないか</p> <p>この後、さらに時間をとり、3 グループに分かれての明日の作業の動き確認を行いました。</p>
8 月 19 日(月)	キパンランガンダ中等学校 米澤隊員	<p>朝は 7 時 45 分に集合し、出発。途中で天気が悪くなって雨が降るなどしている陽気でしたが、やや遅れたものの無事に到着しました。</p> <p>全体のスケジュールが少しのびてもいい。というお話もあったのですが、「お茶の時間」に先生との</p>

		<p>交流をゆっくりさせていただいた結果、時間が大幅に遅れてしまい、全てが1時間倒しになりました。また、高校2年生のグループが少なくなっており、3グループでの交流は2グループでの交流に変更し習字やかぶとおりなどを行いました。</p> <p>最後はソーラン節や、歌など、いつものプログラムをして終了しました。</p>
8月19日(月)	教材等購入	<p>スーパーに立ち寄り、買い物をしました。ウガリが購入で来てよかったです。</p> <p>ホテルに戻り、夕食の前に3名の指導案に対する振り返りを実施しました。夕食は中華料理屋でJICA 木全さん、友成さん、足立さん、大林さんとの会食でした。様々なお話を伺うことができました。</p>
8月19日(月)	本日の振り返り	<p>夕食後、残りのメンバーの授業案についての検討が行われ、私の分も検討をしていただくことになりました。いくつか意見をいただいたので反映させた指導案にしようと思いました。</p>
8月20日(火)	JICA タンザニア事務所 報告会	<p>8時40分からJICAタンザニア事務所にて報告会がありました。各自「印象に残ったこと」「どのように授業に生かすか」について報告をさせていただきました。私は授業で「生徒そのものの社会性の低さ・乏しさをアフリカの大地をおかりし、彼らの偏見を取り除きたい」というお話をさせていただきました。O&OD PJに関しても触れるつもりが、報告会では話すことを失念してしまいました。食文化での取り扱いは難しいため、「国際理解の授業などで使わせていただく予定」とお話しするつもりだったのですが緊張してか、話すことから抜け落ちてしまいました。反省です。</p>
8月20日(火)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	<p>10時半から12時まで1時間半にわたり、岡田大使にお時間をいただきました。事前に友成次長から「岡田大使は現場レベルまで情報を収集され、理解したうえでご意見をおっしゃるかただ」というお話をうかがっていたのですが、本当にその通りでした。</p> <p>お話の中で特に私が印象に残ったのは、「善意が健全な発展を阻害することもある」ということです。日本はすでに発展を遂げている国。その国からサ</p>

		<p>ポートをすることは可能なことも多いし、見ないふりをして放置することも無理です。しかしながら、援助の方向性を間違えば、それは、タンザニアのためにはならないということも事実だと本当に感じました。私たちが継続的な支援を考えて行く中で、どのような活動は続け、どのような活動は遠慮していくことが必要なのか、少しでも先に発展を始めた国として何ができるのかを真摯に考える姿勢は常に必要なのだと感じました。</p>
8月20日(火) -21日(水)	タンザニアから日本までの移動中および日本到着	<p>14時半にホテルを出発し、タンザニアからドーハへ移動、あまり時間もないまますぐに乗り換え、日本に向けて移動しました。帰りを見る空港はすでに懐かしく、行きに見た様子と同じはずなのに、懐かしいような気持ちになりました。</p> <p>ドーハ空港は行きと比べて人が非常に多く、混雑していました。ただ、特にトラブルもなくスムーズで、無事に成田に到着しました。</p>